

## 命と向き合おう

今、「アニマルウェルフェア」という考え方が、世界的な広がりを見せています。安心安全な畜産を続けてきた大地を守る会の生産者は、この世界的な潮流を、どのように考えているのでしょうか。鶏の生産者「まほろばライブファーム」を訪ね、お話を伺いました。



風と日差しが入り、床は籾殻でふかふか。水を飲んだり好きな場所に行ったりと、鶏たちは自由に過ごします。

大切なのは、  
 食べる人と作る人が、  
 命と向き合うこと

## まほろば式の アニマルウェルフェア

見渡す限り緑が生い茂る山々。街道沿いの溪谷には滝があり、清涼感あふれる音が響いています。標高約400mという夏でも涼しい山麓にあるのは、まほろばライブファーム（山形県高島町）の鶏舎。「ここでは、街道を挟んで道の駅の目の前に鶏舎があります。普通であれば鶏舎の匂いで敬遠されがちだけど、まったく匂いがしないでしょう？ だから人里とも共存できています」とは、代表の伊藤幸蔵さん。

くさみがなくうまみが濃いいという声が多く寄せられるまほろばの鶏肉。ゆったりとしたスペース、地元産の飼料米や米ぬか、酒粕などを独自に配合した発酵飼料で、35年以上前から耕種作物の栽培と畜産を組み合わせた「有畜複合農業」というかたちで鶏を健康に育てています。

近年、「アニマルウェルフェア」という考えが世界的に注目されています。アニマルウェルフェアとは、簡単に言えば、家畜ができるだけストレスなく、自由に、健康に生きること（※詳しくは左項コラム参照）。まほろば



いつもお世話するスタッフなら逃げずに落ち着いている鶏たち。

## 地に足つけて はまきる鶏たち

ライブファームは2014年、日本の肉鶏で初めてアニマルウェルフェアの第三者認証を取得しています。「でもじつは、認証を取るために特別なことは何もしていません。これまでやってきたまほろば式の畜産が、そのままアニマルウェルフェアに認められただけなんです」と伊藤さん。

鶏舎に着いてまず気づいたのは、とても静かなことでした。鶏たちは、まるで縁側でくつろぐように、穏やかに座っています。「これは鶏たちがリラックスしているからなんです。鶏は非常に繊細で、見知らぬ人が近づくと鶏舎の隅に一齐に逃げ、圧死してしまうこともあるほどです」と生産行程管理責任者・石川公士さんが説明してくれました。

続いて驚いたのが、山から降りてくる風と暖かな日差しが心地よいこと、そして、くるぶしまで埋まりそうなふかふかの床。「床には地元の籾殻を10cmも敷いているから、ふかふかの布団みたいでしょう。籾殻は湿度を調整してくれ、糞が落ちても



- 1 「山に囲まれた平地で、実り豊かな住みよい所」という意味の“まほろばの里”山形県高島町は、果樹園や田んぼが広がっています。
- 2 本社から七ヶ宿街道で隣接する宮城県七ヶ宿町の鶏舎の隣りにある滝。鶏たちもリラックスするそう。



鶏たちの糞は堆肥にして地元の農家へ。「作物に合うよう複数の堆肥を作っています」と話す伊藤さん(左)と阿部さん(右)。

## 鶏も田畑も菌活！ 畜と農で地域循環

まほろばライブファームの鶏たちが健康な理由は、水と飼料にもあります。鶏たちが飲んだり、鶏舎に撒かれているのはBMWという活性水。

べちゃべちゃにならず衛生的。きれいなことは人同様、鶏も気持ちがいいんですよ」と石川さん。自由に動き回っている鶏たちの足は、太くて逞しい。この足こそ平飼いの証とでもいうように、大地をしっかりと踏みしめています。

一方、一般的な養鶏では、風も日差しも入らない壁に囲まれた「ウィンドレス鶏舎」で、たたみ二畳分に對して約60羽を、ほぼ身動きがとれないスペースで密飼いしています。病気の発生・蔓延予防として、飼料には抗菌性物質が入っています。また、鶏舎内を薄暗くし、鶏が眠らず、動き過ぎずの状態にすることで、飼料をおとなく食べ続けさせる「工夫」もあるとか……。鶏はもはや工業製品のように「製造」されている」という伊藤さんの言葉通り、効率性と生産量が重視されているのが一般の養鶏の現状です。



生産行程管理責任者・石川さん(左)と代表・伊藤さん(右)。

環境を考えると自然なことでした。養鶏に糞や米ぬかなどをもちょう代わりに、農家には鶏糞をBMWで発酵させた堆肥を渡しています。海外からも指導のオファーがあるほど、「有畜複合農業」の実績を長年にわたり確実に積み上げています。

## 相手を想い、 命と向き合うこと

この循環の取り組みは、もともと米農家であった伊藤さんの発案で生まれました。「自分も米を育てているので、地域には米や野菜、果物の農家が多いから、農業と畜産の地域循環を心がけているのです。」

農業に頼らない農産物の産直から始まった大地を守る会は、1978年から取り扱いはじめた精肉においても、「健康に育った畜産物」をお届けすることを大切にしてきました。非遺伝子組み換え原料の飼料や飼育

方法、投薬の制限などの取り組みも率先して行っています。今、「アニマルウェルフェア」という新しい潮流が、日本にも届き始めました。「家畜がストレスなく、行動欲求が満たされ健康的な生活ができること」とも定義される「アニマルウェルフェア」は、じつは、大地を守る会の畜産生産者が、これまで実践してきたことと重なります。「お母さんが子どもにごはんを作る感覚と一緒に、生産者は食べる人を想い生産すること、食べる人は作ってくれた人に感謝して食べること、つまり顔の見える関係が一番大切なんです。私たちが親ならば鶏は子どもで、地域の農家は私たちの鶏のために飼料を作ってくれる。こうした相手を想うこと、循環が、持続可能な畜産を生み出し、ひいてはアニマルウェルフェアにつながるのです」と伊藤さんは語ります。

大地を守る会は、アニマルウェルフェアを広めることを目的に畜産関係者が集まった団体「アニマル・ウェルフェア・フード・コミュニティ・ジャパン」に加入しました。ただ一つ、相手を想い、命と向き合うことを忘れずに、日本の畜産の未来を模索していきたいと思っています。

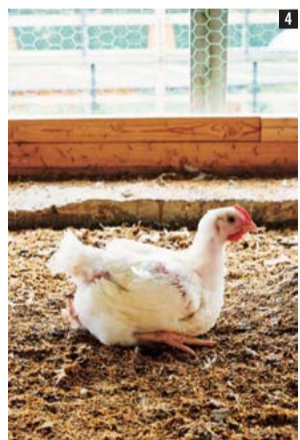
## C O L U M N アニマルウェルフェア 日本の現状

2000年以降、欧米諸国では、人と家畜に共通する感染症や安全な食品などに対する市民の強い関心を背景に、「アニマルウェルフェア」に配慮した畜産への転換が盛んです。家畜の「アニマルウェルフェア」とは、「家畜が最終的な死を迎えるまでの飼育過程で、ストレスから自由で、行動欲求が満たされた健康的な生活ができること。それにより、家畜と人が相互に満ち足りた生活を与え合っていること」。アニマルウェルフェア畜産は、世界獣医学協会の方針ともなっている「5つの自由」に沿って行われています。

「アニマルウェルフェア」は世界に広がりつつあり、日本でも政府による指針の策定や、畜産関係者による団体の設立などが進んでいます。大地を守る会が参加している団体「アニマル・ウェルフェア・フード・コミュニティ・ジャパン」(山形県雫崎市の)のその一つ。しかし、日本における実際の具体的な飼育方法については、意見がまとまっていないのが現状です。大地を守る会の畜産生産者も参加していた7月のシンポジウムでも、熱い議論が繰り広げられていました。命を大切にす畜産と生活を広げるための努力はこれからも続きます。

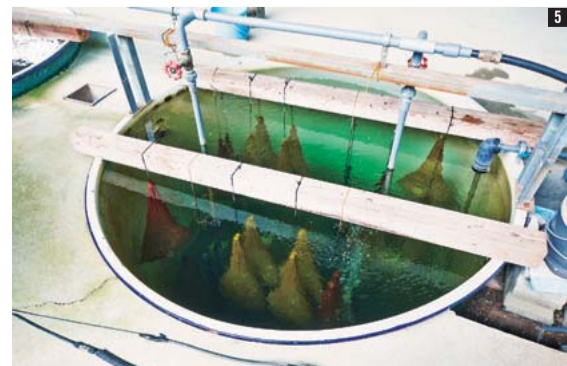
### 国際的に認知されている アニマルウェルフェアの基本 「5つの自由」

- 1 飢えと渇きからの自由
- 2 不快からの自由
- 3 痛み、傷、病気からの自由
- 4 正常行動発現の自由
- 5 恐怖や悲しみからの自由



3 1日に最大約20トンの飼料を作る自社の飼料工場。鶏の成長に合わせて配合を変えるなど細やかな仕事を担う尾形さん。

4 おとなしく座っているのはリラックスしている証拠。風と日差しがよく入る場所で一休み中。



5 岩石を吊るしながら培養することでできるバクテリア・ミネラル・ウォーターは、ミネラルが豊富です。

6 農業を極力使わずに栽培された飼料米を使うのも、鶏たちの健康に配慮していること。

### 鶏もも肉 (まほろば)

1272 凍 10  
250g 589円 (税込636円)

※同時配布のカatalog  
『ソチオーネ』138号も合わせてご覧ください。

Text: Kazuo Yoshida Photo: Taro Terasawa

# { イベント }

編集後記 ↓ 「アニマルウェルフェア」という言葉は耳新しいかもしれませんが、日本でも世界でも、「命と向き合い尊重して生きる」という目指すところは「一緒」有機や「オーガニック」などが広がり、野菜について考えることは多くなりました。みんなが大好きなお肉についてもぜひ思いを馳せてみてください。

竹を使ってへらや菜箸を手作りし、たき火料理を満喫しよう！

## 長野修平さんのネイチャークラフト&アウトドア料理教室 2017.10.21(土) 10:00~16:00

ネイチャークラフト作家でアウトドア料理本の執筆も多い長野修平さんによる毎年恒例のイベント。今回は好評の声が多い竹の調理道具作りで、へらや菜箸、それらを収納できるスタンドを作ります。竹の調理道具は鍋にやさしく、熱にも強く長持ちするすぐれものです。

お昼ごはんは、大地を守る会の食材を使ったたき火料理。ダッチオーブンや鉄鍋が、野菜や鶏肉など素材そのもののうまみをぐんと引き出します。自然素材をふんだんに使った長野さんのアトリエ兼住居も見応えありです！



大地を守る会の食材を使ったたき火料理。

### DATA

**会場**……長野修平さんの手作りアトリエ  
(神奈川県相模原市緑区)  
※JR・京王相模原線「橋本駅」よりバスで30分、バス停より徒歩10分  
**講師**……ネイチャークラフト作家・長野修平さん  
**参加費**……2,500円  
**定員**……20名  
**申込**……10月6日(金)まで  
**主催**……大地を守る会・森と木の住まいづくりフォーラム

料理の味がワンランク上がります！

## 私だけの“しろたまり”を作ろう 2017.10.12(木) 10:30~12:30

大豆を使わず小麦と塩で作る昔ながらの白醤油を再現した「しろたまり」。琥珀色でまろやかさとうまみがあり、お吸い物や卵焼きに使うと素材の色を生かしながら上品な味に仕上がります。そんな「しろたまり」を手作りしてみませんか？試食付きでお料理もご紹介します。

※これまでの同イベントにご参加された方で仕込用瓶を持参する場合、参加費は500円引きとなります。お申込みの際、その旨を備考欄にご明記ください。



### DATA

**会場**……川崎市中原市民館 料理室  
(神奈川県川崎市中原区)  
※東急東横線・目黒線「武蔵小杉駅」南口より徒歩4分  
**講師**……日東醸造・蛭川洋一さん  
**参加費**……2,000円(材料、仕込み用瓶含む)  
**定員**……30名  
**申込**……9月22日(金)まで  
**主催**……大地を守る会・港北大地サークル

[スターターキット付き] 生ごみを堆肥にリサイクル

## ダンボールコンポスト入門講座 2017.10.26(木) 10:00~12:00

家庭で必ず出る生ごみ。実はダンボールを使って簡単に、その生ごみを堆肥にすることができます。微生物の力を利用するので、必要なものはダンボール、基材、生ごみだけ。今回はスターターキットとともに手順をご説明します。自家製堆肥で野菜や花を元気に育てましょう。

※これまでの同イベントにご参加された方でたい肥診断を希望する場合、たい肥を一握り分ご持参ください。

### DATA

**会場**……川崎市中原市民館 実習室  
(神奈川県川崎市中原区)  
※東急東横線・目黒線「武蔵小杉駅」南口より徒歩4分  
**講師**……環境を考え行動する会のスタッフ  
**参加費**……3,500円(スターターキット<ダンボール、基材>、送料含む)  
**定員**……25名  
**申込**……9月29日(金)まで  
**主催**……大地を守る会・エコ研



## 澄んだ秋空の下、収穫して食べて楽しむ一日 くらぶち草の会 秋の収穫祭

2017.11.3(祝・金) 10:00~14:15

標高約800mという群馬県の倉淵町に位置するくらぶち草の会。春〜秋を中心にほうれん草や大根などを出荷しています。畑仕事が落ち着く11月に、今年も収穫祭が開催されます。野菜の収穫体験、BBQ、お餅つきなど盛りだくさん！収穫の秋を楽しみましょう。



立派に育った野菜にみんな夢中です。

### DATA

**会場**……くらぶち草の会 ログハウス広場  
(群馬県高崎市倉淵町権田5344-185)  
※現地集合・解散です。  
**駐車場**……あり(無料)  
**参加費**……大人(中学生以上)2,500円、子ども(小学生以下)無料  
**定員**……大地宅配会員30名  
**申込**……10月10日(火)まで  
**主催**……くらぶち草の会  
**お申込・お問合せ**……くらぶち草の会  
FAX ● 027-378-4051  
TEL ● 027-378-2531 (9時~17時)  
※持ち物：農作業できる服装、軍手、食器、飲み物など  
※お申込のFAXで大地宅配会員であること、参加人数(大人、子どもの人数)、氏名、住所、電話・FAX、メールアドレスをご明記ください。



今秋完成の作品を鑑賞し、トークも聞ける機会です

## [懇親会付] 映画『おだやかな革命』 特別試写会&トークイベント

2017.10.1(日) 第1部 ● 10:30~12:30 第2部 ● 13:00~15:00

日本各地で持続可能な地域の再生を目指して奔走する人々の姿を描いたドキュメンタリー映画。今、多くの若者が中山間地域に移住し、市民電力事業を立ち上げ、衣食住を自らの手で営んでいます。第1部は映画鑑賞、第2部は監督&ゲストのトークの二部構成です。



### DATA

**会場**……**第1部** ● TCC試写室(中央区銀座)  
※JR「新橋駅」銀座口より徒歩3分  
**第2部** ● 新橋駅前G-Style(港区新橋)  
※JR「新橋駅」烏森口より徒歩5分  
**講師**……『おだやかな革命』『よみがえりのレシピ』  
監督・渡辺智史さん、  
会津電力・佐藤弥右衛門さん  
**参加費**……大地を守る会向け特別価格3,500円  
**定員**……**第1部** ● 15名 **第2部** ● 15名  
**申込**……9月19日(火)まで  
**主催**……有限責任事業組合 いでは堂  
**共催**……大地を守る会・FEFE  
**お申込・お問合せ**……大地を守る会・CSR推進部(担当●FEFE)

※第1部、第2部のどちらかのみにご参加希望の場合、お申込みの際にその旨を備考欄にご明記ください。参加費は一律3,500円とさせていただきます。



## よみがえるブナの森 第25回秋田・ブナを植える集い

2017.11.3(祝・金) 9:30~16:00

米どころ秋田県大潟村の水源地である五城目町馬場目川上流に森林を再生しようと、大潟村の生産者の呼びかけで始まった植栽イベント。初期に植えたブナは立派に成長し、広葉樹の森にもなっています。植栽後は、バーベキュー交流会やコンサートも行います。



これまで約2万本のブナを植栽。

### DATA

**訪問先・植栽地**……五城目町恋地国設スキー場跡地  
(秋田県南秋田郡五城目町)  
**駐車場**……あり(無料)  
**参加費**……無料  
**定員**……20名  
**申込**……9月29日(金)まで  
**主催**……馬場目川上流部にブナを植える会  
**お申込・お問合せ**……大地を守る会・CSR推進部  
(担当●米プロジェクト21)

※現地集合・解散です。五城目町役場、またはJR「八郎潟駅」で合流も可能ですので、ご相談ください。

※11月2日(木)から前泊も可能です。前日18時頃より懇親会を実施予定です。当日はバスで植栽地へ移動します。

お申込みはWEBまたは  
下記「参加申込み書」から

大地を守る会 イベント

検索



お問合せ

大地を守る会 CSR推進部  
TEL ● 043-380-7760  
E-mail ● csr@member.daichi.or.jp

## 9月号 参加申込み書

CSR推進部行

イベント名	会員番号
名前	TEL ( )
参加人数	参加者全員の名前(お子さんは年齢・学年も)
備考	

※複数のイベントにお申込みの場合は、「連絡便」などに必要事項を明記の上、ご提出ください。